体外受精・胚移植のスケジュール

～ロング法による誘発・採卵・胚移植～

2010/07/15

大川産婦人科･高砂
Tel: 097-532-1135

大川産婦人科病院･末広
Tel: 097-536-3511

※点線 ■ ■ ■ は
基礎体温を示します

事前に行う検査
- 基礎体温　子宮がん検診
- クラミジア検査
- 夫　精液検査

採卵前月 D3 検査
- 術前問診
- 内診、超音波検査（胞状卵胞）
- 各 history よりＣＯＨ方法を決定
- Tube test
- ホルモン検査 E2 FSH LH（採血）
- 感染症 血液型検査(採血)
- 夫感染症の検査(採血)

診察　採卵前周期の高温期になったら、電話予約をして受診してください。
高温期２,３日後、超音波検査（排卵済か、卵胞腫れるか）
（ホルモン周期は診察なしの場合もある）
スプレキュア使用の指示など

hMG 注射
（卵を育てる）
月経 3 日目から開始し、卵胞が育つまで（8～14 日間ほど）連日注射します。この間 4～1 日毎に超音波で卵胞の大きさを測定します。

hCG 注射
（卵を成熟させる）
採卵 2 日前に 1 回だけ
夜 22:00 に注射、約 36 時間後に排卵しますが、排卵が起きる前に採卵を行いますので、必ず定刻どおりに注射して下さい。

採卵　hCG 注射 2 日後の朝 9:00 来院、9:30 当院手術室で採卵します。
静脈麻酔を使用し、手術後は 2 時間安静のため、帰宅できるのはお昼頃です。

胚移植　採卵の 2～3 日後
10:00 当院手術室
約 1 時間安静後帰宅できます。

××××× 月経

診察　月経が始まったら 3 日目に受診してください。
超音波検査を行います。
（誘発を開始します）

××××× 月経

スプレキュア点鼻
（GnRH アゴニスト；排卵を抑える）
高温期 7 日目付近から hCG 注射の１時間前まで
（ホルモン周期は内服終了前 3,4 日前から…）
毎日 8 時間おきに両側の鼻腔に各 1 押しします。
指示があるまでは必ず継続して使用して下さい。

黄体補充（新鮮胚移植時）
（着床を助ける）採卵当日から妊娠判定まで
黄体ホルモン製剤
採卵直後プロゲストンデポー125 mg 筋注
夕方より 3 日間プロゲステロン膣座薬1日2回挿入　同じ時期にプラノバール内服1日1錠を併用
胚移植後更に各14日間追加

妊娠判定　胚移植の１２日後に外来受診、妊娠の判定をします。
妊娠が確認された場合は黄体補充を妊娠８週まで継続します。（妊娠陰性の場合２,３日後再検）

診察　OHSS の可能性がある方は採卵の約 1 週間後に超音波や採血を行います。

～注意～
- 体外受精前の周期は避妊して下さい
- 基礎体温の測定は胚移植後の妊娠判定まで続けて下さい